



2月の歳時 節分

雑節の一つで、各季節の始まりの日（立春・立夏・立秋・立冬）の前日のこと。節分とは「季節を分ける」とも意味している。「一年間健康に過ごせるように」という願いを込めて「悪いもの」を追い出す行事とされています。

とうめい news

2026.2.1
Vol. 294

〒243-0034 厚木市船子237
TEL. 046-229-3377
発行者: 河野 昌史
編集責任者: 佐藤 賢治
印刷: (有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

耳鼻咽喉科における甲状腺診療

耳鼻咽喉科：
大上 研二

TOPICS



耳鼻咽喉科を担当しています大上研二（おおかみけんじ）と申します。山口大学を卒業し、1999年から東海大学に勤務し、現在医学部長、耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授

で、当クリニックでは非常勤で診療を担当しています。本日は当科で扱っている甲状腺診療についてご説明します。

甲状腺は、首の前側、のどぼとけの下に位置する蝶々のような形の小さな臓器で、全身の代謝を調節するホルモンを作っています。甲状腺ホルモンの働きで日常の活動するためのエネルギーの使い方と身体の活動性を調節する、大事な役割を持っています。甲状腺ホルモンの量がちょうど良ければ、体は元気に動きますが、少なすぎると疲れやすくなったり体が冷えたりし、多すぎると動悸や汗が増え、痩せたりします。通常は手で触れることはありませんが、腫れやしこりができると気づかれることがあります。こうした異常は、良性のことも多いですが、中には手術が必要となる病気もあります。

耳鼻咽喉科では、甲状腺の外科的疾患、手術が必要となる腫瘍やがんの診療を行っています。診療はまず、問診・視診・触診に加え、超音波検査（エコー）で甲状腺や周囲のリンパ節を観察します。必要に応じて穿刺吸引細胞診（細い注射針でしこりを刺して、中の細胞を吸い取る）を行い、しこりの細胞を顕微鏡で調べて、良性か悪性かを判断します。

この検査は外来検査室にて日帰りでおこないますが、細胞の診断には1-2週間を要します。

甲状腺の外科的疾患の代表は甲状腺がんです。甲

状腺がんには、比較的ゆっくり進行する乳頭がんや濾胞（ろほう）がん、やや進行の早い髄（ずい）様（よう）がん、まれですが非常に進行が早い未分化がんなどがあります。甲状腺がん、特に乳頭がんは早期に発見できれば治療成績が良く、手術により多くの方が長期にわたり元気に過ごされています。手術の目的は、腫瘍を確実に取り除くことに加え、必要に応じて周囲のリンパ節も切除し、再発の可能性を減らすことです。

術式は腫瘍の大きさや場所、病気の広がりに応じて、甲状腺の一部を残す葉（よう）切除（せつじょ）や、全てを取り除く全摘出などから選択します。手術後は、声帯の動きやカルシウムの値などを慎重に観察し、必要があればホルモン補充療法を行います。

現在耳鼻咽喉科では院内で手術は行っていないですが、がんが疑われるなど手術を要する場合には東海大学病院など近隣病院や都内の病院へ紹介しています。甲状腺のしこりはすべてが悪性ではありません。大きくなって飲み込みにくさや圧迫感を生じる良性腫瘍でも、症状や将来の変化を考えて手術を選択することがあります。

当院では、患者さん一人ひとりの病状や生活背景に合わせて治療方針を丁寧にご説明しており、内科的治療が必要な場合には、糖尿病・内分泌科などの先生方と連携して治療方針を検討します。早期発見・早期治療が、治療成績と生活の質を大きく左右します。私たちは、安心して治療を受けていただけるよう、適切な診療と分かりやすく丁寧な説明を心がけています。首のしこり、声のかすれ、飲み込みにくさ、首の腫れや違和感などの症状がある場合は、早めの受診をおすすめします。